

|||||||御使用前に必ずお読みください|||||||

《 共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置 》 取扱説明書

P V T - A B S - 4 0 N 3 型



この度は、P V T - A B S - 4 0 N 3 型『共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置』を御採用いただき誠に有難う御座います。

本製品は厳しい品質管理の元で製造され、高度な品質と性能を誇る製品で御座いますので、御使用に関して下記事項および製品仕様書に御留意の上、御使用いただきますよう御願い申し上げます。

施工業者様におかれましては、本書の全項目をよく御読みください。また、施工業者様より**御施主様**へ内容をよく御説明の上、本書を御渡しください。

スプリンクラー設備が設置されてからの**設備管理にあたられる方**におかれましても、本書をよく御読みの上、関係者の周知してください。また、本書はいつでも見られる場所に大切に保管してください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく御利用いただき、御客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ず御守りください。

本製品について

○不時放水による水損防止

P V T - A B S - 4 0 N 3 型『共同住宅用予作動式(湿式)流水検知装置』(以下、共同住宅用予作動弁(湿式)という)は、地震時などのスプリンクラーヘッドの誤作動による不時放水や配管の破損などによる水損事故を未然に予防するため火災感知器との連動により作動する流水検知装置です。

- 感知器との連動による制御方式については、下記に示す二方式があります。

[ダブルロック方式]

「火災感知器作動信号」とスプリンクラーヘッド作動による「二次側配管内の減圧信号」のAND条件が成立する事により、共同住宅用予作動弁(湿式)の主弁を開閉し、二次側配管内に加圧水を送り込み、スプリンクラーヘッドから放水させます。

[シングルロック方式]

「火災感知器作動信号」のみにより、予作動弁(湿式)の主弁を開閉し、二次側配管内に加圧水を送り込み、スプリンクラーヘッドの作動に備えます。

- 「火災」と「水損」の両方から大切な物とかけがえのない人命と財産を守る「最も安全なスプリンクラー設備」である予作動式(湿式)スプリンクラー設備の導入は、超高層・高層共同住宅が次々と建設される21世紀の現代社会において必要不可欠であることは言うに及びません。また、よりグレードの高い住戸のみを予作動式(湿式)スプリンクラー設備とし、通常の湿式スプリンクラー設備との混在も可能です。

○制御弁の開閉状態監視機能

共同住宅用予作動弁(湿式)に内蔵されている制御弁は、共同住宅用スプリンクラー設備で必要とされる開閉状態を監視する為に、制御弁監視スイッチが取り付けられています。

機能確認時に行う制御弁の閉止操作の復旧忘れや、いたずら等による制御弁の閉止操作を監視することにより、火災時の消火用水の供給、流路を確保出来る構造となっております。

○配線接続作業の簡略化

共同住宅用予作動弁(湿式)には、火災信号スイッチ、制御弁監視スイッチ等の電気配線を必要とする精密部品が組み込まれております。各付属のスイッチへの配線作業を簡略、且つ、確実に行う為、接続端子ボックスを設けており、各付属スイッチへの接続配線については、消防用耐熱電線を使用し、各付属スイッチから接続端子ボックスの端子台まで工場出荷時に結線済みとなっており、現場作業の軽減を実現しております。

○住戸内に警報を出さず動作確認試験の実施が可能

共同住宅用予作動弁(湿式)に設けられた接続端子ボックスにより、アラームスイッチの流水信号および制御弁の状態監視信号を住宅情報盤および住棟受信機へと移信出来る構造となっております。当然、機能確認時には、居住者が居られても住戸内に警報が鳴ってしまい、住宅情報盤にて警報の停止操作の為、住居内に入らせていただく必要があります。

逆に、居住者が不在時には、その警報の停止操作が出来ず、警報がなったままの状態になります。住宅情報盤の機能点検も含め、住戸内に警報を鳴らすのが本来の点検ですが、どうしても警報を鳴らせない住戸については、本製品の各住戸専用ターミナルボックス内に試験用スイッチを設けております。

試験用スイッチとは、「警戒時(定位)」から「試験時」に切り替えることにより住戸内の住宅情報盤へ移信されるアラームスイッチの流水信号を遮断し、警報を発しない状態することが出来ます。

同時に住棟受信機へ機能確認を実施している住戸を確認する為の試験信号を移信します。

※試験用スイッチは各住戸専用ターミナルボックスに組み込まれていますので

各住戸専用ターミナルボックスを使用時ののみ可能です。

P V T - A B S - 4 0 N 3 梱包品リスト

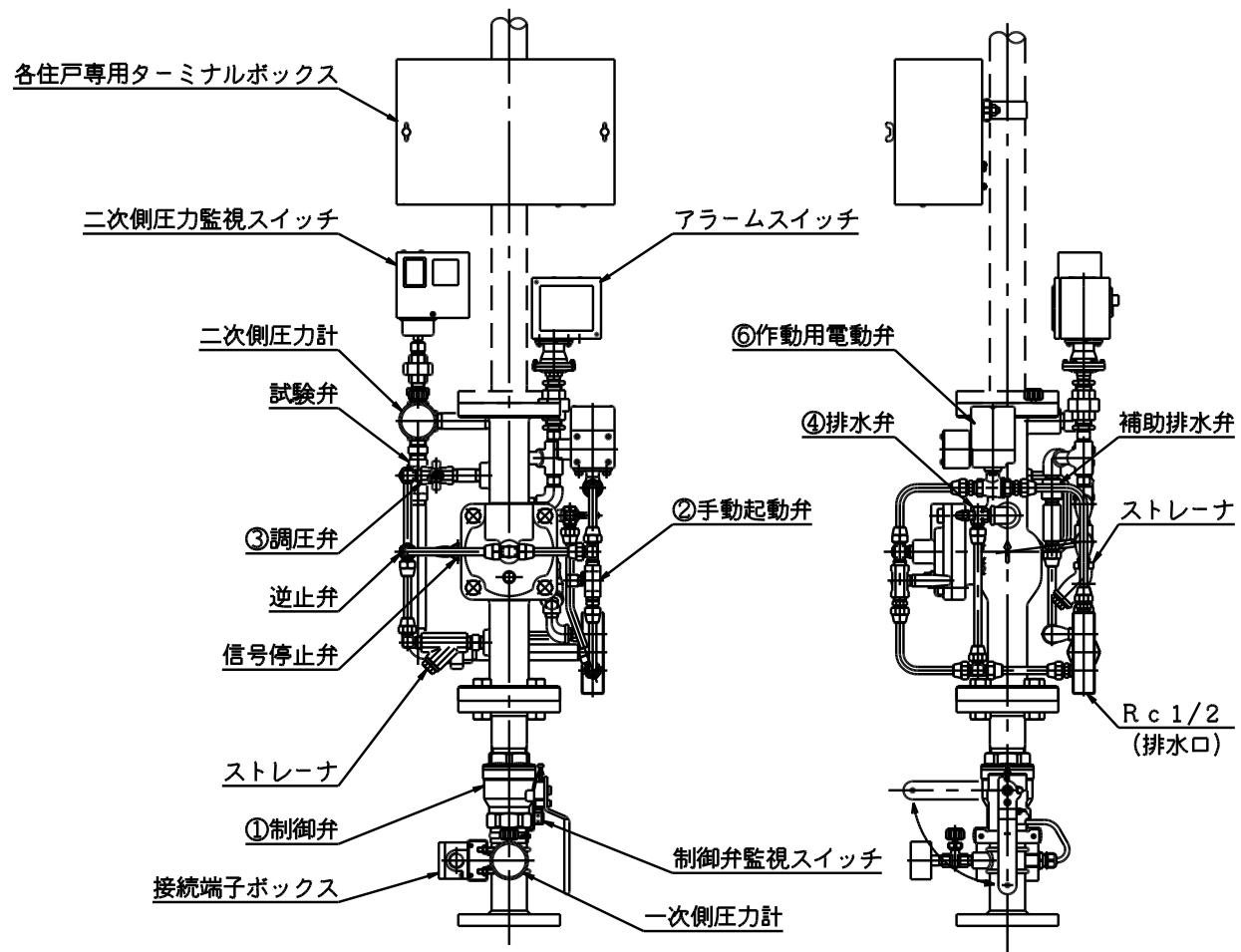
品 名	個数
P V T - A B S - 4 0 N 3 本体	1
アラームスイッチ	1
二次側圧力監視スイッチ	1
圧力計 50φ × 2.5MPa	2
取扱説明板 P V T - A B S - 4 0 N 3型	1
プレート制御弁 S P ヨコ	1
常時開・閉プレート 6枚入り(ボールチェーン付)	1

基本仕様

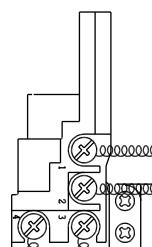
予作動弁 (湿式)	製品型式	I-PV-40N3-10K
	使用圧力範囲	0.15~1.4 MPa
	耐圧試験圧力	2.0 MPa
	圧力損失値(直管相当長)	0.1 MPa (17.3m)
	塗装色(マンセル)	赤色(7.5R4/14)
	国家検定(型式番号)	流第2022~1号
アラームスイッチ	製品型式	PS1:PS-T2型
	最高使用圧力	1.4 MPa
	接点形状	2a
	設定圧力	0.02~0.06 MPa
	設定時間	5~25 sec
制御弁 (東洋バルヴ製)	製品型式	RC40A
	最高使用圧力	1.0 MPa
	耐圧試験圧力	1.5 MPa
	圧力損失値(直管相当長)	0.9 m
	性能評定(整式番号)	評11-044号
制御弁監視スイッチ	接点形状	1c
	使用数量	2個
	結線状態	a・b接点 各1個使用
二次側圧力監視 スイッチ (S P 作動) (警報用)	最高使用圧力	1.5 MPa
	接点形状	2a
	二次側圧力 (MPa)	0.07 (ON) 0.12 (OFF)
	最高使用圧力	1.5 MPa
	定格電圧、電流	D C 24V、140mA
作動用電動弁	起動電流	0.5 A

※ 圧力バランスの崩れによる瞬間的な弁体開放を防止する為に、通常警戒時の流水検知装置一次側圧力値は、常時0.30(二次側圧力設定値+0.05) MPa以上が保持されるようにしてください。

共同住宅用予作動弁(湿式)各部名称



二次側圧力監視スイッチ結線図
(SP作動・警報用)

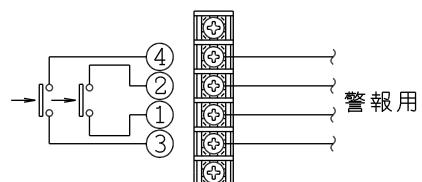


① (SP作動)
② → ○ ↑ ○ → ① (SP作動)
④ → ○ ↑ ○ → ③ (警報用)

④ (警報用)

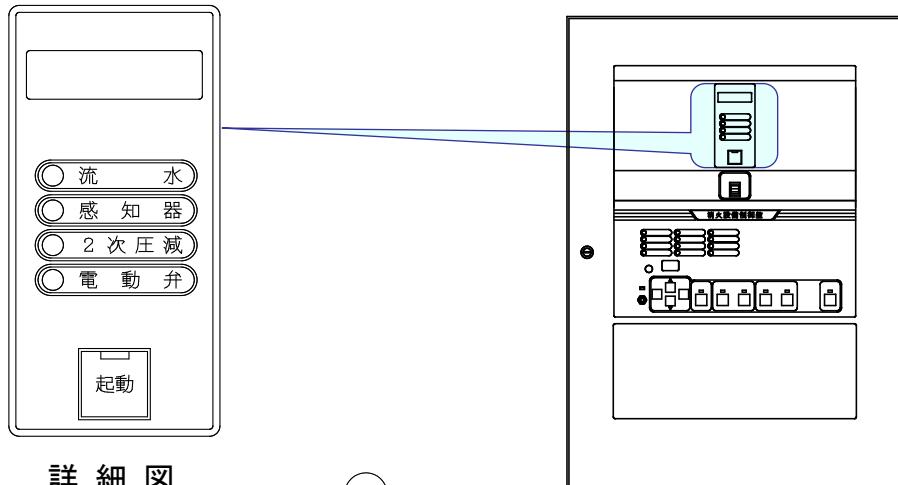
※ 矢印↑は圧力上昇時作動方向を示します。

アラームスイッチ結線図

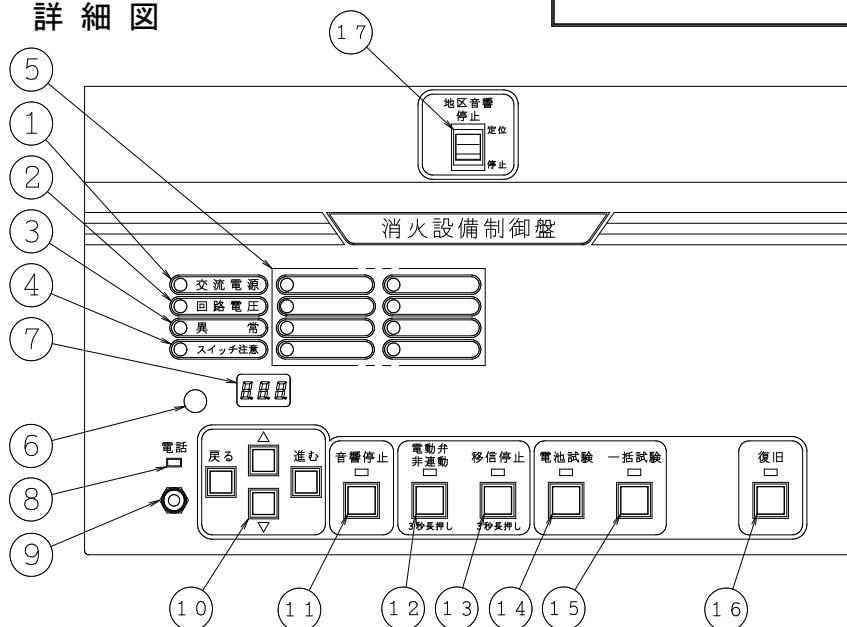


※矢印←は圧力上昇時の作動方向を示します。

予作動弁制御盤



詳細図



各部名称

番号	名 称	備 考	番号	名 称	備 考
①	交流電源灯	LED	⑩	表示切替スイッチ	押し鉗
②	回路電圧灯	LED	⑪	音響停止スイッチ	押し鉗
③	異常灯	LED	⑫	電動弁非連動スイッチ	押し鉗
④	スイッチ注意灯	LED	⑬	移信停止スイッチ	押し鉗
⑤	諸表示入力灯	LED	⑭	電池試験スイッチ	押し鉗
⑥	音響ブザー		⑮	一括試験スイッチ	押し鉗
⑦	7セグ表示部	LED	⑯	復旧スイッチ	押し鉗
⑧	電話灯	LED	⑰	地区音響停止スイッチ (オプション)	トグルスイッチ(ロック)
⑨	電話ジャック				

準標準オプション

自火報設備点検・故障対応	自火報設備点検・故障信号が入力されると、全ての予作動弁(湿式)が、感知器が発報したのと同じ状態で待機します。
補助散水栓ダブルロック対応	補助散水栓から放水による予作動弁(湿式)の作動を、補助散水栓のL/Sと二次側配管内の減圧(2次圧減信号の発報)のダブルロックとします。

予作動弁制御盤機能説明

表示灯、主音響及びスイッチ機能

1. 関係者以外は、絶対に手をふれないでください。
2. 平常時は、交流電源灯および回路電圧灯が点灯しています、その他の表示灯は消灯しています。
3. 停電時は、交流電源灯が消灯し回路電圧灯のみが点灯し、電源が自動的に予備電源に切り替わり監視を続けます。
4. 異常灯が点滅した場合には、7セグ表示部のエラーコードを確認し、弊社または、購入元販売店・代理店まで御連絡ください。

- 交 流 電 源 : 正常通電の時に点灯し、停電時には消灯します。
- 回 路 電 圧 : 正常通電の時、点灯します。異常時には消灯します。
- 異 常 : 異常時に点滅します。
- スイッチ 注意 : 音響停止・地区音響停止・電動弁非連動・移信停止の各スイッチ操作時に点滅します。
- 電 話 : 外部機器に電話ジャックを設けた場合、電話ジャックに送受話器のプラグが差し込まれると制御盤から電話音が鳴動し、灯が点灯します。
- 2 次 圧 減 : 二次側圧力が減圧すると、該当する区画の2次圧減灯が点灯し主音響が連続鳴動します。また、二次側圧力監視スイッチへの接続配線が断線すると、該当する区画の2次圧減灯が点滅し主音響が断続鳴動します。
- 感 知 器 : 感知器が作動すると、該当する区画の感知器灯が点灯し主音響が連続鳴動します。また、感知器への接続配線が断線すると該当する区画の感知器灯が点滅し、主音響が断続鳴動します。
- 電 動 弁 : 作動用電動弁に開信号が出力されると電動弁灯が点灯します。また、作動用電動弁への接続配線が断線すると該当する区画の電動弁灯が点滅し、主音響が断続鳴動します。
- 流 水 : 予作動弁(湿式)が作動すると、該当する区画の流水灯が点灯し主音響が連続鳴動します。また、アラームスイッチへの接続配線が断線すると該当する区画の流水灯が点滅し、主音響が断続鳴動します。
- 自 火 報 設 備 点 檢 ・ 故 障 : 自火報設備からの点検・故障信号により点灯し、主音響が連続鳴動します。(オプション仕様)
- 起 動 : 手動操作で電動弁を起動させる時、ガードを開き操作します。予作動弁起動時にスイッチに内蔵されている表示灯が点灯します。また、外部から開閉弁スイッチ入力信号により点灯します。(オプション仕様)
- 音 韶 停 止 : スイッチ操作で主音響が停止します。停止後に警報入力があると音響が再鳴動します。スイッチ長押し(3秒)で灯が点灯し、音響が常時停止となります。
- 地 区 音 韶 停 止 : 下側に倒すと、外部接続音響装置を停止します。(オプション仕様)
- 電 池 試 験 : スイッチ操作により電池試験が出来ます。7セグ表示部に試験時の電圧を表示します。異常がある場合「E r r」を表示します。
- 一 括 試 験 : スイッチ操作で制御盤の入力回路試験、表示灯点灯試験、電池試験を行います。本試験により放水等の外部出力は行いません。
- 復 旧 : 制御盤の警報信号保持、感知器の復旧、外部端末への出力が復旧します。電動弁へ閉出力します。復旧中は灯が点灯します。
- 電 動 弁 非 連 動 : スイッチ長押し(3秒)で電動弁出力が非連動状態になります。(手動制御の場合を除く。)
- 移 信 停 止 : スイッチ長押し(3秒)で他設備への移信を遮断します。

障害が発生した時

障害発生時は、異常灯が点滅して7セグ表示部にエラーコードが表示されます。

複数の障害が発生している場合は、表示切替スイッチの「▲スイッチ」「▼スイッチ」で切り替えることで確認できます。

また、エラーコードの中には、詳細を表示するものがあります。切替スイッチの「進むスイッチ」を操作し、確認することができます。詳細コード表示中に「戻るスイッチ」を操作するとエラーコードに切り替わります。



障害発生時は弊社または、購入元販売店・代理店まで御連絡ください。

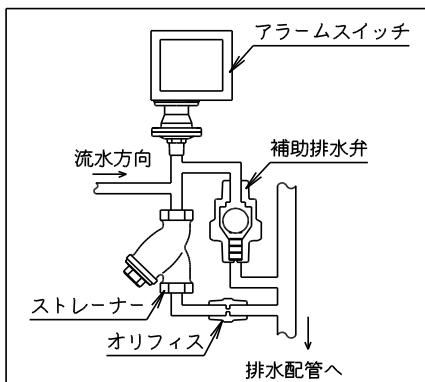
エラーコード例

コード	詳細1	詳細2	エラー項目	備考
E 0 1	回線番号 L 0 1～L 5 0		感知器線断線	
E 0 5	回線番号 L 0 1～L 5 0		警報用圧力スイッチ 線断線	アラームスイッチ
E 0 7	回線番号 L 0 1～L 5 0		2次圧減用圧力スイッチ 線断線	二次側圧力監視スイッチ
E 3 6	回線番号 L 0 1～L 5 0		作動用電動弁線断線	
E 4 9	基板番号 P 0 1～P 1 7		入力回路電源異常	入力の監視電源異常時に表示
E 5 8			電池異常	予備電池未接続時及び充電抵抗の脱落時に表示
E 5 9	F 0 2	回線番号 L 0 1～L 5 0	ヒューズ断	作動用電動弁
	F 0 5			外部電源
	F 0 8			予備電源
	F 0 9 F 1 0	基板番号 P 0 1～P 1 2		オプション基板出力
E 6 2	F 1 1		電池試験異常	一括試験時に電池電圧が規定値以下の場合に表示
E 6 3	F 1 1			定期試験時に電池電圧が規定値以下の場合に表示
E 6 4			回路低電圧異常	定期試験時に回路電圧が規定値以下の場合に表示
E 6 5			回路高電圧異常	定期試験時に回路電圧が規定値以上の時表示
E 6 6			電池充電異常	電池充電時の電池電圧が規定値以下の場合に表示

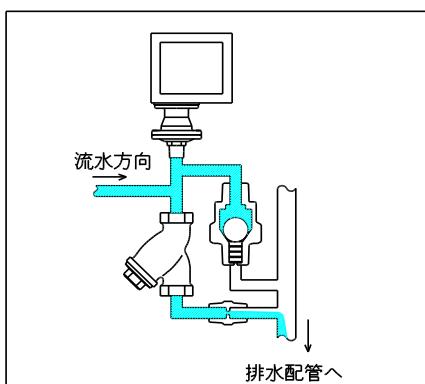
補助排水弁について

ストレーナーのメッシュ詰りや微小な弁座漏れなどが発生した場合に圧力水を補助排水弁から排水することで非火災報を防止することができます。

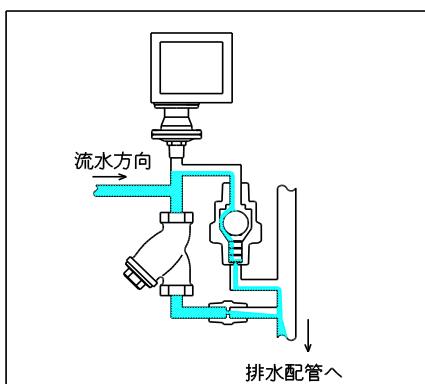
補助排水弁作動説明



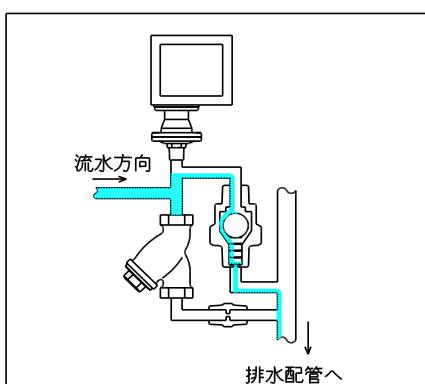
- 警戒状態
信号導圧配管は無圧状態であり、
補助排水弁は開放状態です。



- 火災発生時
火災時は弁体開放により信号導圧配管内が加圧されます。
信号導圧配管内が加圧されることで補助排水弁が閉止し、
アラームスイッチが作動します。



- 復旧
復旧時には弁体閉止により、信号導圧配管内への加圧が停止します。信号導圧配管内の加圧水が排水配管へ排圧される事により補助排水弁は開放状態に戻ります。



- 非火災報の防止
万が一、ストレーナーのメッシュ詰り（オリフィス詰り）
と微量な弁座漏れが発生した場合であっても、補助排水
弁より排水されることでアラームスイッチの作動まで
至らず、非火災報を防止することができます。

ストレーナーのメッシュは点検時等定期的に清掃して
ください。

注意マークについて!!

故障

故障の原因になります

破損

破損の原因になります

消防性能

消防性能に影響します

事故

事故の原因になります

施工前・保管時における取扱注意

- 梱包用ケース、製品の状態を確認してください。

故障

破損

消防性能

事故

★開梱の際には、製品の変形、破損等が無いことを御確認ください。

★梱包用ケースに破損が見られましたら、内部の製品の状態にも注意してください。

★開梱時に変形、破損等の異常が発生しておりますたらそのままの状態で速やかに弊社まで御連絡ください。

- 製品、付属品等の数量を御確認ください。

故障

★同梱している付属品の数量については、別紙「付属品明細」にて御確認ください。

故障

破損

- 保管の際は、梱包に示す各注意事項を厳守してください。

故障

- 製品は、標準梱包のまま屋内で保管してください。

故障

施工時における取扱注意

- 本製品の設置および運用につきましては、消防法施行規則を始めとする関係法令に従って行ってください。



★本製品の設置場所には、付属品である「流水検知装置取扱説明」も備え付けてください。

- 本製品のメンテナンススペースを確保してください。



★施工中の機器設置および竣工後の操作、点検および消耗品取替時等作業上のスペースが必要となります。

- 取付け方向・流水方向を間違わないように設置してください。



★取付け方向等を間違えると正常に機能しません。

- 制御配管・電動弁には、足などを掛けないようにしてください。



★各機能が正常に機能しない恐れがあります。

- 本製品の構成部品、付属品以外の組合せによる使用は出来ません。



★本製品、構成部品及び付属品の組立て、設置の際には別紙機器図面を参考にしてください。

- 配管内のフラッシングは必ず行い、配管内の異物を取り除いてください。



★ウエス、砂利、その他の異物が詰まっている場合には、誤報等の故障、破損および消火性能が失われる可能性があります。

- 落下させたり、衝撃を加えたりしないでください。



★落下させたり、衝撃を加えたりした製品は、使用しないでください。

- 消火用水には一般用水を御使用ください。



★塩分、アルカリ、酸等を含んだ水を使用した場合には、流水検知装置を初めとする設備全体に悪影響をおよぼす恐れがあります。

- 二次側配管内への充水時には、出来るだけ残留空気の残らないようにしてください。



★本製品の二次側配管に大量の残留空気があった場合、不時放水時の水損量が多くなります。必ず二次配管側内の残留空気は、出来る限り排出してください。

- 付属するスイッチ類への結線時には、必ず電源を遮断してから作業を行ってください。

故障 事故

- ★結線時は、必ず電源を遮断し、付属スイッチ等の電圧、電流を確認した上で作業を行ってください。
- ★接続端子ボックスへの結線は、ボックスカバー裏面の回路図（一例）を参考にしてください。
- ★結線方法は、各現場にて違う場合が御座いますので、確認した上で行ってください。
- ★故障の原因となりますので、結線に必要としないネジ以外のネジ、ナットおよび工場出荷時に結線済みのスイッチ、配線等には絶対に触れないでください。

- アラームスイッチ・圧カスイッチ・各スイッチ・圧力計は、検査済みおよび調整済み品を出荷しておりますので、ケース蓋・接続端子以外には触れないでください。

故障 消火性能 事故

- ★アラームスイッチ及び付属スイッチ類は、全て精密機器であります。タイマー設定部に限らず、内部部品等には絶対に触れないでください。正常に機能しない恐れがあります。

- 圧力計の取扱いには、充分注意してください。

故障 破損

- ★圧力計は、全て精密機器であり、絶対に衝撃を与えないでください。
- ★圧力計は、消耗品でありますので使用上、故障が確認された場合は、速やかに交換してください。
- ★**水張りの際圧力計元弁は必ず閉めてからポンプ起動してください。**その後、徐々に圧力計元弁を開いてください。急激な圧力上昇は、圧力計が破損する恐れがあります。
- ★圧力計には、下記に示す JIS で規定された許容範囲が認められておりますので御注意ください。

付属品圧力計

精度等級	大きさ	圧力範囲	目盛数
1.6 級品	φ 50	0~2.5MPa	50

許容差 : JIS B 7505 : 1999

許容差	
目盛範囲A	目盛範囲B
±1.6%	±2.4%

目盛範囲A：圧力スパンの両端各 10%を除いた範囲

当該圧力計では 0.25MPa~2.25MPa

の範囲においては、

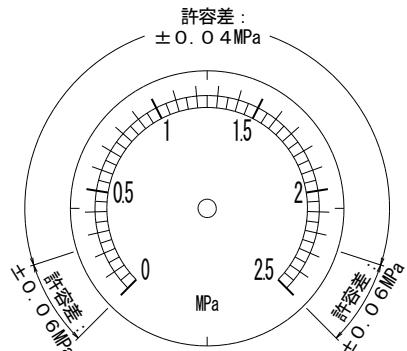
許容差：±0.04 MPa

目盛範囲B：圧力スパンの両端各 10%の範囲

当該圧力計では 0~0.25MPa および

2.25MPa~2.5MPa の範囲においては、

許容差：±0.06 MPa



- 排水管は大気圧開放とし、アラームスイッチに、排水立て管側からの背圧がかからないようにしてください。

故障 破損

- ★アラームスイッチが作動し、誤発報となる恐れがあります。

●凍結を起こさないようにしてください。

故障
破損

- ★凍結の恐れがある場所への設置は出来ません。
- ★寒冷地のみならず、屋内においても凍結の恐れがある場合は、必ず凍結防止措置を施してください。

●付属品等の紛失に御注意ください。

消防
性能

- ★施工手順によっては、開梱後、全ての付属品が取付け終了まで日数を要する場合もありますので、付属品等の紛失には、十分注意してください。

設定状態移行時の注意事項

◆ 設定状態について

- ☆ スプリングクラーポンプ起動に際しては、一次側制御弁を『全閉状態』にしてポンプ起動し、一次側配管内に加圧後一次側制御弁を徐々に開放してください。
- ☆ ⑥作動用電動弁が全閉になっている事を確認してください。
(弊社製予作動盤をご使用の場合は復旧ボタンにて全閉します。)
- ☆ 二次側への給水は、一次側より③調圧弁を開放させて給水してください。
- ☆ 二次側圧力が0.25 MPa以上になった場合は、④排水弁を手動にて開放し警戒圧力である0.25 MPaに減圧、調整を行ってください。
- ☆ 当該製品の二次側圧力設定値は「0.1～(一次側圧力-0.05) MPa」です。
二次側圧力を高くする場合は一次側圧力下限値（補助用加圧ポンプが起動する際の当該フロアの一次側圧力）よりも、0.05 MPa以上低い値にしてください。
警戒圧力0.25 MPaでは前記範囲外となるフロアにつきましては、前記範囲内となるように警戒圧力を個別に設定・調整・運用してください。二次側圧力設定値が個別設定値となるフロアは、下記の空欄に個別設定値をご記入ください。（必要に応じ、別表を作成ください。）

<個別設定値 記入欄>

設置場所（部屋番号等）	個別設定値 (MPa)

◆ 警戒状態について

- ☆ ②手動起動弁は、常時閉にしてください。
- ☆ ⑤信号停止弁は、常時開にしてください。
- ☆ ④排水弁は、常時閉にしてください。
- ☆ ③調圧弁は、常時閉にしてください。
- ☆ 一次側、二次側の圧力計コックは、常時開にしてください。
- ☆ ①1次側制御弁は、必ず全開にしてください。

◆ 火災発生時

- ☆ 全自動にて作動します。

◆ 消火制水について

- ☆ 完全消火を確認後①一次側制御弁及び⑤信号停止弁を閉じ④排水弁を開いてください。
- ☆ ポンプを停止してください。
- ☆ スプリンクラーヘッドの不時放水時には、④排水弁を開けずにスプリンクラーヘッド、の交換を行なってください。スプリンクラーヘッドの交換前に④排水弁を開けた場合は必要以上の配管内水がそのスプリンクラーヘッドより放水されます。

◆ 復旧について

- ☆ 作動したスプリンクラーヘッドおよび破損、燃焼した部分を取替えてください。
- ☆ ②手動起動弁は、常時閉にしてください。
- ☆ ⑥作動用電動弁は、全閉してください。
(弊社製予作動弁制御盤をご使用の場合は復旧ボタンにて全閉します。)
- ☆ ⑤信号停止弁は、常時開にしてください。
- ☆ ④排水弁は、常時閉にしてください。
- ☆ ③調圧弁は、常時閉にしてください。
- ☆ 一次側、二次側の圧力計のコックは、常時開にしてください。
- ☆ ①一次側制御弁は、必ず全開にしてください。
- ☆ 住棟受信機、警報盤、ポンプ起動盤、予作動弁制御盤などの復旧を確認してください。

異常時の対応方法(共同住宅用予作動弁(湿式))

異常の状態・症状	予測される原因	対処方法
①二次側圧力が、低下する。	a)接続部からの漏洩の為。	漏洩箇所を修理する。
	b)付属する弁類の漏洩の為。	付属する弁類の開閉状態を確認し、異常があれば交換する。
	c)弁本体(弁座)に異物が噛み込んでいる為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
②機能確認時に、流水信号が出ない。	a)配線、結線の不具合の為。	接続端子への配線間違いおよび固定ネジの緩みを確認する。
	b)弁本体よりアラームスイッチへの配管管内に残留空気がある為。	ポンプ起動状態で試験排水弁を開閉し、残留空気を抜く。
	c)内部に異物が詰まった為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。
③機能確認時に、流水信号が止まらない。	a)配線、結線の不具合の為。	接続端子への配線間違い、固定ネジの緩みおよび短絡がないかを確認する。
	b)二次側配管内に残留空気がある為。	ポンプ起動状態で試験排水弁を開閉し、残留空気を抜く。
	c)弁本体(弁座)に異物が噛み込んでいる為。	ポンプ起動状態で排水弁または末端試験を開閉し、フラッシングを行う。または分解、清掃を行う。

異常時の対応方法（予作動弁制御盤）

現象	考えられる主な原因	対応方法
①表示灯が点滅する	断線もしくは終端抵抗が入っていない。	断電線の調査、復旧終端抵抗を挿入し、再結線してください。
②制御盤が起動しない	ヒューズが破損している。	ヒューズを交換してください。
③電動弁起動灯が点滅する。(結線時の終端抵抗は正常)	地区基板上のヒューズが破損している。	ヒューズを交換してください。

点検時における取扱注意

○外観点検

共同住宅用予作動弁(湿式)

- ①制御弁は【全開状態】となっているか確認ください。
- ⑤信号停止弁、圧力計用ゲージコックは【全開状態】となっているか確認ください。
- ②手動起動弁、③調圧用弁は【全閉状態】になっているか確認ください。
- ④排水弁は【全閉状態】になっているか確認ください。
- 各部より漏水がないか確認願いください。

予作動弁制御盤

- 各スイッチ位置は正常な位置にあるか確認ください。
- 交流電源表示灯が正常に点灯しているか確認ください。
- 各表示灯が点灯もしくは点滅していないか確認ください。
- 制御盤箱に劣化がないか確認ください。

○機能点検（ダブルロック）

- 点検区域の自火報設備の感知器を作動させてください。
(予作動弁制御盤の当該区域の『感知器表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。尚、他設備との連動停止等については特に間違の無い様に注意してください。)
- 点検区域の試験弁を開放し、二次側を減圧させてください。
(予作動弁制御盤の当該区域の『2次圧減表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。)
- 1.2.の作業によりAND条件が成立し、共同住宅用予作動弁(湿式)主弁が開放します。
(この主弁開放により消火用水が流水され、アラームスイッチが作動します。)
- アラームスイッチが作動した事により、予作動弁制御盤の『流水表示灯』が点灯し、警報音が発せられ緊急時を知らせます。
(この作業で作動機能は確認されました。)
- アラームスイッチ作動の確認後、試験弁を閉止してください。予作動弁制御盤より復旧スイッチを押してください。作動用電動弁が閉止され、流水が止まります。尚、復旧には数秒から30秒程度掛かることもありますので、復旧しない場合は、繰り返し復旧スイッチを押してください。
- 流水の止まった事を確認後、二次側配管内圧力を推奨圧力値である0.25MPaへ
④排水弁にて減圧してください。

※警戒圧力が個別設定値の場合は、その設定値に合わせてください。(詳細11頁参照)

○機能点検(シングルロック)

1. 点検区域の試験弁を開放し、二次側を減圧させてください。
(予作動弁制御盤の当該区域の『2次圧減表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。)
2. 点検区域の自火報設備の感知器を作動させてください。
(予作動弁制御盤の当該区域の『感知器表示灯』が点灯し、警報音が発せられます。)
3. 共同住宅用予作動弁(湿式)主弁が開放します。
(この主弁開放により消火用水が流水され、アラームスイッチが作動します。)
4. アラームスイッチが作動した事により、予作動弁制御盤の『流水表示灯』が点灯し、警報音が発せられ緊急時を知らせます。
(この作業で作動機能は確認されました。)
5. アラームスイッチ作動の確認後、試験弁を閉止してください。予作動弁制御盤より旧スイッチを押してください。作動用電動弁が閉止され、流水が止まります。
6. 流水の止まった事を確認後、二次側配管内圧力を推奨圧力値である0.25MPaへ④排水弁にて減圧してください。

※警戒圧力が個別設定値の場合には、その圧力値に合わせてください。(詳細11頁参照)

●消防法令で義務づけられている有資格者における保守点検は、必ず実施してください。

●常に警戒圧力値の確認を行ってください。

平常時との比較の上、異常が確認された場合には、誤作動もしくは作動不良等の恐れがありますので資格を有する専門業者に御連絡ください。

製品、並びに記載事項に関する御問い合わせは、
弊社または購入元販売店・代理店まで御連絡下さい。

IS(イー・エス)株式会社立壳堀製作所

<http://www.itachibori.co.jp/>

大阪支社	〒550-0012	TEL : 06-6538-1231	大阪市西区立壳堀 1 丁目 10 番 10 号
		FAX : 06-6533-6708	
東京支社	〒110-0016	TEL : 03-5688-3121	東京都台東区台東 4 丁目 8 番 7 号
		FAX : 03-5688-3110	仲御徒町フロントビル
中部支社	〒464-0850	TEL : 052-732-8891	名古屋市千種区今池 4 丁目 1 番 29 号
		FAX : 052-732-8896	ニッセイ今池ビル
西部支社	〒812-0016	TEL : 092-471-1661	福岡市博多区博多駅南 2 丁目 1 番 5 号
		FAX : 092-471-1662	博多サンシティビル
札幌営業所	〒001-0012	TEL : 011-708-1120	札幌市北区北十二条西 1 丁目 2 番 25 号
		FAX : 011-708-1130	花ビル
仙台営業所	〒984-0015	TEL : 022-283-0691	仙台市若林区卸町 5 丁目 2 番 10 号
		FAX : 022-283-0693	卸町斎喜ビル
横浜営業所	〒231-0057	TEL : 045-252-0291	横浜市中区曙町 2 丁目 19 番 1 号
		FAX : 045-252-2771	曙町新井ビルディング
静岡営業所	〒422-8034	TEL : 054-237-7995	静岡市駿河区高松 2 丁目 29 番 19 号
		FAX : 054-237-7997	
京滋営業所	〒612-8401	TEL : 075-644-6121	京都市伏見区深草下川原町 22 番地 11
		FAX : 075-644-6431	市川ビル
広島営業所	〒732-0057	TEL : 082-264-5557	広島市東区二葉の里 1 丁目 1 番 72 号
		FAX : 082-264-1506	GKD ビル
四国営業所	〒791-0054	TEL : 089-971-3883	愛媛県松山市空港通 3 丁目 12 番 18 号
		FAX : 089-973-2394	コーポ王赤
沖縄営業所	〒904-0002	TEL : 098-975-5455	那覇市曙 1 丁目 14 番 6 号
		FAX : 098-934-5456	金太郎ヒルズ曙